

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろは差えがあるから面白い
いろはな人がいるから楽しい

No. 677

2024年4月

（**星**刊）

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- シアクロウの保護活動
- 計 報
- 「母性」「ソング&セルフ」など
- お便りから
- 山仕事 (3月、犬平・薄場)
- 『敷地の民俗』
- 『長い道』
- 湖西線・北陸本線の旅
- 戦闘機 第三国輸出解禁
- け・い・じ・ぼ・ん
- 雑報友の会決算報告

- R24 2
- 3
- 4
- 8
- 14
- 16
- 17
- 18
- 21
- 23
- 24



泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

（3月までの去就が
決まるまで、しばし
お待ちを。）

月 日 現在の
会員数 名

この見本誌をみて新たに
「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を
郵便局で 10540-52760981
(鈴木厚正の口座)
へ 振り込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぼん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフィ RZ-330

※ この号の切手は、MY旅切手②
(前号と同じだけれど、他にないので)
同じ絵柄が行ったら、ごめん下さい。

山仕事(3月、大平・薄場)

3月14日(木)、うす晴。平塚あたりからはよく見えた富士山。丹那トンネルをぬけて静岡県に入ると、うす曇りした姿となった。春先によくある現象だ。

敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えられる。買物組と分かれ正士さんと二人、正士さんちへ。正士さん、確定申告などで忙し、昼食前だったのだ。

今回、昨秋に刈りためた山野草を田んぼに入れる予定だったが、月曜日に降った雨のため田んぼがぬかるんで軽トラが入れず人が入って散布する元気もなく、断念。まもなくトラクタでの代かきが始まるので、前回軽トラで畝だすへい回分で終り。

結局、ゴミ処理の日となった。燃えるゴミを原田、若林さんが軽トラで磐田市の焼却場へ搬入。原江さんと久米さんは調理にかかり、竹中、山崎さんとぼくは空ピンの洗浄、プラスチックごみの整理にかかり、前回、油がすの散布と茶園の耕耘に使った機械の洗浄も。

お母さんも加わっての夕食は。

(夕) 刺し身(アジ、ビンコウのトロ)、大根ステーキ、新玉ネギのサラダ、青菜と油揚げと長芋煮、エシャレット、白菜漬(正士さんの妹さん)、金山寺みそと正士さんの手打ちそばを久米さんのだしにかえしていただく。

食後、久しぶりに原田さんのケーナでお母さんも知っている歌を合唱。

22時過ぎ、オホーツク佐呂間町の船木耕二さんから電話が。3月29日、菅原さん他計5名で見舞いに何うとのこと。この日、天候は大荒れ、大変だよね。

一人、母屋で寝袋に入る。

3月15日(金)、快晴。この日は一日、前回に続く竹やりの整理。集客の少し手前の水田には、竹中さんの手でハス田(予定)を獣害から守る竹の杭が立てられていた。前回伐った竹枝を使ったのだ。

久米さんのお庭でお茶をいただき、竹中さん宅裏手の竹やりにかかる。正士、竹中、若林さんの組と原田、山崎さんとぼくの2組に分かれ、作業開始。

その間に、水窪から片道1時間半をかりて舟屋千づる、熊谷道子さんのお二人がご馳走を運んで来てくれた。

久米さんの座敷での昼食には、^{かつみ}袴田克彦さんも参加。

(昼) ぼた餅三種(小豆あん、栗あん、黄粉)、イワシのかば焼き、シイタケのフライ、味噌はなのおにぎ、セブなます、白菜の漬物、青菜の漬り物(竹中さん栽培)、芋がらの煮物、水窪ジャガタ(小粒の在来種)の明太子和之、みそ汁、晚白柚(熊谷さん、大きなものはバスケットボールほどの大きさ)、イチゴ。

袴田さんも昼食後は作業に参加。

皆さんがくばり、かなりサッパリした。

16時、浜松市の「あらたまの湯」へ。新東名高速道路の森町パーキングに正士さんのワゴンと軽トラフを置き、又米さんと竹中さんの車に分乗して向かう。

入浴後、正士さんたちに戻り、予め康江さんと又米さんが調べてくれた料理を、お母さん、青山さんも加わっていただく。

(夕) 餃子(青山さん提供)、ナメタカいの煮付、はんぺん(多分、紐めピカタ、切昆布と油揚げの炒め物、新玉ネギと春菊のサラダ、長芋、ホウダイと新玉ネギのバター焼きに正士さんのおそば。

途中、特製「長芋の王子焼きタラコ」のせが登場。お月が誕生月の正士さんと青山さんのために用意されたのだ。「Happyバスター」を合唱して祝う。

今回も内田美智子さんから白饅頭を送っていただいた。袴田さんは小田原の外部を持参、団十郎の「外郎売り」をみるとさき。

お月16日(土)、晴。ツツジ園の剪定(続き)。うっそうと茂っていたのがサッパリした。

11:30、終了。

溝口さんが今回も新種のオレンジと茨城名産 紅はるかの乾燥芋を携えて正士さんの見舞いに来てくれた。

昼食は、ハヤシライスと前日からのご馳走の残り。

敷地駅で正士、又米、竹中、若林、溝口さんに盛大に見送られ帰宅。

今回も、帰りしな山崎さんにご難。

下は、いつも山仕事を手伝ってくれる山本真由美さんが、昨年5月に就任以降の磐田市地域おこし協力隊員としての活動状況を報告した、静岡新聞(3月15日)の記事。

子どもや育児世代向けイベントに意欲

磐田市地域おこし協力隊員

山本さんが活動報告



2023年度の活動を報告する山本さん＝磐田市役所

磐田市の地域おこし協力隊員を務める山本真由美さん(45)＝浜松市出身＝の2023年度活動報告会が13日、市役所で開かれた。山本さんは豊岡地区の農林業や環境教育などに携わった活動を紹介し、自然に親しめるイベントなど子どもや子育て世代に向けた取り組みに意欲を示した。

山本さんは昨年5月に同市初の隊員となった。23年度は野菜栽培に挑戦したり、地元財産区の森林管理に

参加したりしたほか、今後の活動のための環境学習などに取り組んだ。24年度は子どもが自然観察を楽しめるイベント、子育てサロンなどの開催を計画している。将来的には農業体験農園の運営なども検討しているという。

山本さんは「地元の人にとって何でもないものがよそ者には宝物になる。今ある資源を活用し、プラスアルファを考えたい」と話した。

『敷地の民俗』

前回(3/28~3/2)の山仕事の際、袴田克臣さんから書に配られた。本書は遠州常民文化談話会に静岡県立農林環境専門職大学が協同して昨年12月に出版された。

敷地村となった近世村落七つのうち、石瀬(まんせ)、虫生(むしう)、大平(おいだいら)の3ヵ村は山間部に。東北隅の本官山(ほんぐせん)に源を持つ敷地川が南流して開けた平野部には家田(いわた)、敷地、大当所(おびとうしょ)の3ヵ村が。東側の尾根筋に岩室(いわむろ)村がなる。

敷地村はその後、野部(のべ)、玄瀬(げんせ)両村と合併して豊岡村となり、磐田市と合わり現在に至る。

本書は環境、生業、戦争、秋葉道(交通・交易)、敷地の夜・食・家産生活、年中行事、人生儀礼、信仰、祭礼と芸能(遠州太念仏)、伝説・風習の10章から成り、分担執筆されている。

第2章「生業」の前半では、敷地村の農業を支えた稗山(まごさやま)を詳述する。

平地が少ない村では、敷地、大平、家田、岩室、大当所の5字に江戸時代から続く300町歩(約300ヘクタール)の稗山を、樹木、柴(燃料)、下草、キノコ、牧草などに共同利用してきた。

後半の農業の区分では、鈴木正士さんの農林業経営が紹介される。その中で、猫の手クラブの活動も4ページに亘って紹介されている。ここでは、写真のみを掲げる。

その他は未読なので、これにて失礼します。



本官山
 販売
 1200円+税
 編集・発行
 遠州常民文化談話会
 磐田市掛塚1459-1
 T 0538-66-4775

folklore of Shikiji
敷地の民俗
 地域の伝承から探る 循環型社会の礎



鈴木正士さん



森に囲まれた正士さんの住居
左下の白い部分は丑さちの屋根



敷地駅のホームに立つ猫の手クラブの倒メンバーと学生